

ンメン氏は、六年九月二十六日、エンプレス、オブ、カナダ號にて來朝した、その間約一ヶ月に涉り我國に於ける勞働事情の調査を行ひ、十月二十七日本土を離れ朝鮮經由滿洲に向ひ、奉天、撫順、大連等を視察し十一月四日奉天丸にて大連發上海に向つて出發した、組合は氏來朝の目的の完全なる遂行に助力すべく、氏の横濱上陸より上海着迄の期間、米窪國際部長をして案内並に各地に於ける講演の通譯をつとめしめた、同氏は我國滞在中組合評議員會に出席され感謝の辭を披瀝し、組合各支部に對してITF旗を授與された。

尙同氏は極東副書記局設置に關し日、印、支三國のITF加盟組合協議會を印度に於て開催すべく、米窪氏と共に渡印する豫定であつたがイギリス反動政府の許可する處とならず、爲に同氏の渡印は不可能となつた。

ITF總主事フィンメン氏は極東視察を機としてITF加盟の日、支、印三國の勞働組合の協議會を印度又はシンガポールに於て開催し、極東副書記局設置を決定する筈であつたが、同氏の印度入國不許可其他の事情により協議會の開催が不可能に終つたので本組合が暫定的にITF極東書記局の事務取扱を行ふこととなり、昭和六年十二月十八日開催の組合第四回評議會は滿場一致これを事を承認した。

PO汽船會社カツセイ號乗組印度人海員ベレラ君がコレラにより死亡せる事に關聯し同船々醫の示せる人種的偏見及差別的待遇に關し、組合はITF加盟の立場より海員の國際的福利を擁護すべく印度國民會議日本代表サハイ氏と協力してPO汽船會社に對してITFの名に於て嚴重なる抗議書を送附した。

ITF國際大會は本年八月チエツコスロバキヤのブラークに於て開催されるが、ITF本部は本組合に對し同大會に代表を

送る様二月十八日づけ回狀を送達した、同大會の議題は左の如くである。

假議題

- 一、歡迎の辭及友誼團體挨拶
- 二、會長挨拶
- 三、資格審査員選舉
- 四、議事順序決定
- 五、一九三〇年——一九三一年事業報告
- 六、一九三〇年——一九三一年會計報告
- 七、提案審議
- 八、次年度聯盟本部の決定
- 九、(イ)總評議員選出のための各國の分類
(ロ)總評議員及代理者の選舉
(ハ)執行委員選舉
(ニ)常任委員選舉及書記選舉
- 一〇、次期大會開催地の選定